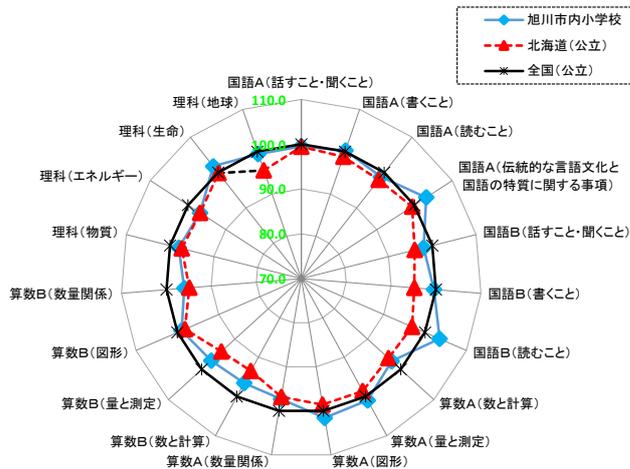


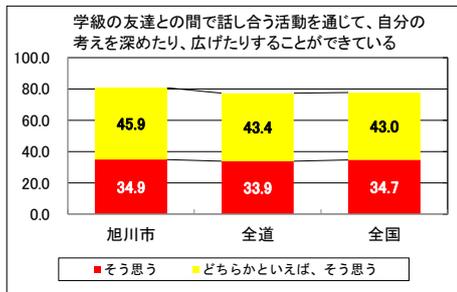
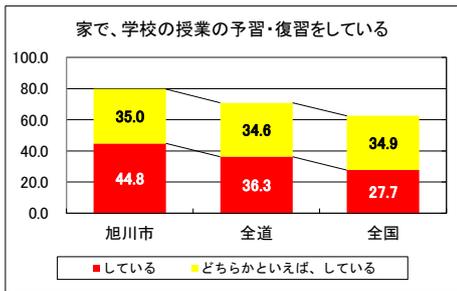
旭川市内小学校の状況及び学力向上策(学校数: 51校、児童数: 2511人)

【教科全体の状況】

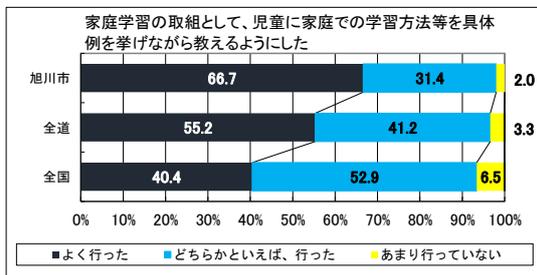
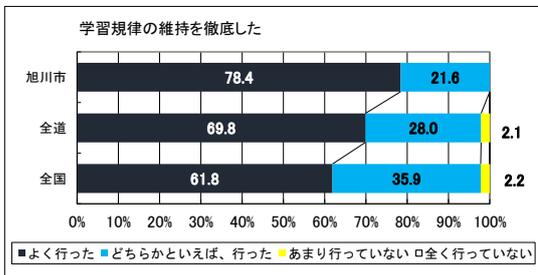
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、「量と測定」「図形」で全国を上回っている。 ○ 理科では、「生命」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体として言語活動の充実に取り組んだことにより、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律の維持を徹底したことにより、落ち着いた学習環境が整えられ、児童が集中して学習に取り組むことができていると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習規律の維持を徹底した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるなど、自ら学ぶ力の育成を図ったことにより、児童が家で予習や復習に取り組むなど、家庭学習の習慣化が図られていると考えられる。

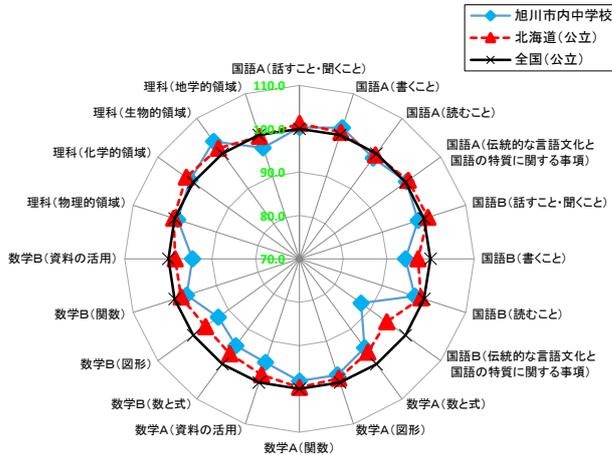
【旭川市の学力向上策】

- ◎ 確かな学力の育成を図る3つの柱である「授業改善」「落ち着いた学習環境づくり」「望ましい習慣づくり」に基づく取組の推進
- ◎ 国語、算数、理科及び学力向上を担当している教員とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版 指導の改善策」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎ 授業力向上プロジェクトチームメンバーを講師及び授業者とした、年3回の授業力向上研修会の実施
- ◎ 小学校各2校を指定する旭川市授業力向上実践研究推進事業の推進
- ◎ 「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」に基づく小中連携・一貫教育の推進
- ◎ 学生ボランティア等の市内小学校への派遣によるきめ細かい指導の充実
- ◎ 市内の全中学校から生徒会役員を中心とするメンバーが集まり協議する「生活・学習Actサミット」による、児童生徒自らが生活習慣及び学習習慣を改善する取組の推進

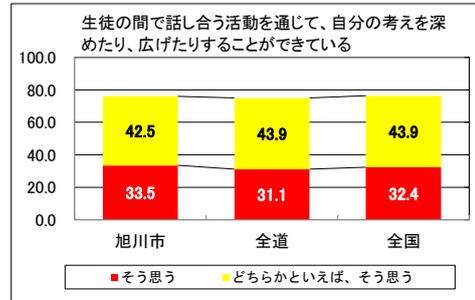
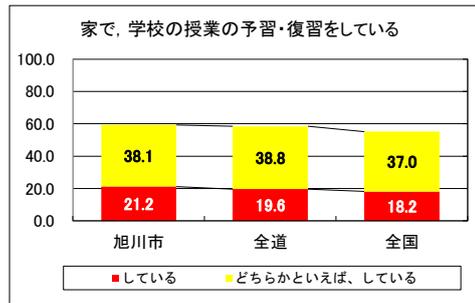
■旭川市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:27校、生徒数:2587人)

【教科全体の状況】

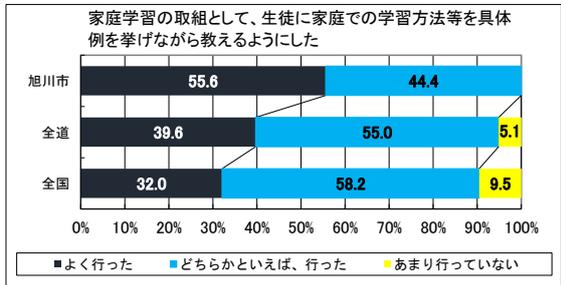
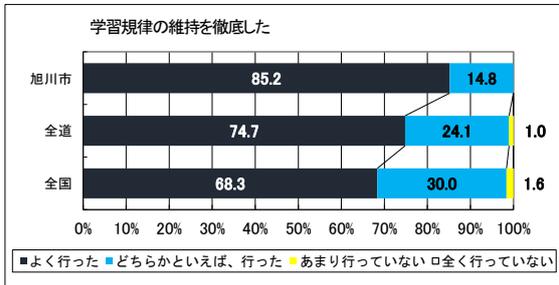
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「書くこと」で全国及び全道を上回っている。 ○ 理科では、「生物的領域」で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体として言語活動に取り組んだことにより、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した生徒の割合が、全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した生徒の割合が、全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律の維持を徹底したことにより、落ち着いた学習環境が整えられ、生徒が集中して学習に取り組むことができていると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習規律の維持を徹底した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるなど、自ら学ぶ力の育成を図ったことにより、生徒が家で予習や復習に取り組むなど、家庭学習の習慣化が図られていると考えられる。

【旭川市の学力向上策】

- ◎ 確かな学力の育成を図る3つの柱である「授業改善」「落ち着いた学習環境づくり」「望ましい習慣づくり」に基づく取組の推進
- ◎ 国語、数学、理科及び学力向上を担当している教員とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版 指導の改善策」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎ 授業力向上プロジェクトチームメンバーを講師及び授業者とした、年3回の授業力向上研修会の実施
- ◎ 中学校各2校を指定する旭川市授業力向上実践研究推進事業の推進
- ◎ 「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」に基づく小中連携・一貫教育の推進
- ◎ 学生ボランティア等の市内中学校への派遣によるきめ細かい指導の充実
- ◎ 市内の全中学校から生徒会役員を中心とするメンバーが集まり協議する「生活・学習Actサミット」による、生徒自らが生活習慣及び学習習慣を改善する取組の推進